

研究の仮説

（仮説1）

◎物が整理されていたり、使いやすい環境に整えられていて、そのことが心地よいと感じられれば、物を大切にできるのではないか。

- ・持ち物や、遊んだ物の片付けがしやすいような環境を整える。
 砂場の道具を種類に分けてかたづけられるように、かごなどを用意する。
 園文庫の本を、カラーシールで分類しておく。
 園児ロッカーの工夫
 空箱やいろいろな紙を、捨てないで使いやすく置いておく…など
 幼児自らが片付けておきたくなるような保育の工夫をする。
 遊びの連続性…「明日もこれをしたいな」という気持ち
 →「きれいに残しておこう」
 「きちんとしまっておこう」という行動に
 考える場…同じ形や大きさ、同じ種類に分類することを、自分で考えて
 楽しくできる環境づくり
 いつもふんだんにあるのではなく、限られた物を大事に使う経験もする。
 友達と分けて使う、もったいないから残しておこう、たくさん使わずに
 すむ方法を考えてみよう（水の使い方など）
- ・ていねいに、きちんとできたかどうか見届ける。
 ていねいに扱うやり方を教師が示し、手本となっていく。知らないことは
 教えていき、できることを増やしていく。（服をたたむ、しまう、こぼさ
 ず食べるなど）
 「まあいいか…」という例外を教師の都合で作らない。
 時間がかかっても“自分でする”ことを大切にす。
- ・大切にできたことをしっかり認める。→自信となる。
 →自分のものとなる。

（仮説2）

◎一人一人が大切にされ、あたたかい心のつながりのあるクラスづくりをしていけば、人や物を大切にできるようになるのではないか。

- ・誕生日にお祝いをしたり、うれしいこと（うんていが渡れるようになったことなど）をみんなに紹介して喜び合うなど、クラスが一人一人の光る場となるようにする。
- ・困っている友達の状態だけでなく、気持ちに気づけるような言葉がけをしていく。
- ・コミュニケーションのことばの使い方を知らせていく。言ってもらったときの心地良さが感じられるようにしていく。
 「ありがとう」「ごめんなさい」「お先に」「おまたせしました」など、
 幼児なりに意味がわかり、場に応じた使い方ができる。
- ・みんなのために働く経験が喜びとなるようにしていく。
 みんなで片付けよう、手伝ってあげよう、仕事をしよう等
- ・いろいろな人に大事にされているんだということを知らせていく。
 「お母さんが早起きして作ってくれたお弁当だね」等
- ・飼育動物や草花等、命あるものが大切に飼育栽培されている環境を作る。

(仮説3)

◎幼児にとって身近な大人(教師、保護者等)が人やものを大切にする暮らし方のよいモデルになれば幼児も同じようにしようとするのではないか。

(保護者と共に)

- ・人や物を大切にする生活
靴の用意などの身仕度を親が全部してしまわず、子どもと共にしてもらうように伝える。→自分の物がわかり、大切に扱えるようになる。
自分でできることが増え、自分で生活の場を整える力がついていく。
落とし物の無いように名前をしっかりと書いてもらう。
あたたかい心のつながりのある関係をつくる。…保護者、教師、幼児等が笑顔であいさつできる。
- ・リサイクル
空箱等の素材を幼児と共に集めてもらい、それをいろいろな製作に利用。
良いものに変身した喜び…自分の好きなもの作り 作品展
お別れ会、母の日のプレゼント
牛乳パックの鉛筆立て 小物入れ
ペットボトルの小物入れ等
広告をファイルしたノートの活用
道具箱等、少し色が違ってても使える用品は大事に使い回しする。そのことが当たり前の生活となるように
牛乳パック回収…木から作られていること、集めればティッシュペーパーになることを知り、園児も切って開いて回収箱へ
PTAサークル活動…牛乳パックを使った小物入れ作り
資源回収(年2回) 雨水樽の活用
- ・働くことが心地よい生活
冬休み等にお手伝いや仕事をする経験
母の日、父の日を機会に『お手伝い券』→感謝されてうれしい体験
働くことが楽しい体験
- ・「いつでも何でも買ってもらえる」から「ちょっと我慢ができる」へ
遠足のおやつ200円を親子で用意

(幼稚園が人やものを大切にできる環境になっているか、幼児のモデルとなる教師であるか、振り返る)

- ・指導計画の中に位置付けて

(園と家庭が考えを交流できる場づくり)

- ・クラスだより
- ・アンケート
- ・れんらくちょう

(学習の場づくり)

- ・講演会 「幼児期における金銭教育」
蒲生東小学校長 田中 淳一 先生
- ・金銭学習会 「幼児を持つ保護者への金銭教育とは」
京都府金融広報委員会事務局長
日本銀行京都支店営業課長 山口 金次 氏

(仮説4)

◎お店やさんごっこ等の模倣遊びや、お金を使った楽しい経験をすることでお金の働きや大切さがわかるようになるのではないか。

- ・お店やさんごっこ、電車ごっこ等
- ・『両親学級』で、お父さんお母さんとおまつりごっこ
- ・本物のお金を使う経験・ちよこっとバスに乗って平田幼稚園へ
・布引小学校との交流会
(230円を自分で払って給食を食べよう)

人やものを大切にする心や 態度の育成をめざして

幼児期における金銭教育とは
「230円を支払って給食を食べよう」



滋賀県東近江市立
市辺幼稚園
服部要子

人やものを大切にする子どもとは

- ものを大切にする子ども
- 人を大切にする子ども

金銭教育 = 生き方の教育

- 自立心を育てる
- 自分をコントロールする力、我慢する心を育てる
- 命の大切さを知り、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる
- 物やお金の価値に気づき、大切に扱う方法を知る
- 働くことの楽しさや喜びを味わう

研究の仮説

- 仮説1
- 仮説2
- 仮説3
- 仮説4

お店屋さんごっこ等の模倣遊びや、お金を使った楽しい経験をすることでお金の働きや大切さがわかるようになるのではないか。

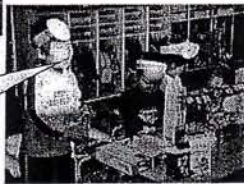


いらっしゃい

いらっしゃい

たいやきは

いかがですか〜！





つぎは、きょうど〜

はっしゃ、お〜らい





「230円を支払って 給食を食べよう」

ねらい

- ① お金の大切さを理解させる。
- ② なくしたら給食が食べられないことに気づかせる。
- ③ 給食はただではなく、お金が必要であることを理解させる。
- ④ 230円というお金の種類を分からせる。
- ⑤ お金のしくみを学ばせる。

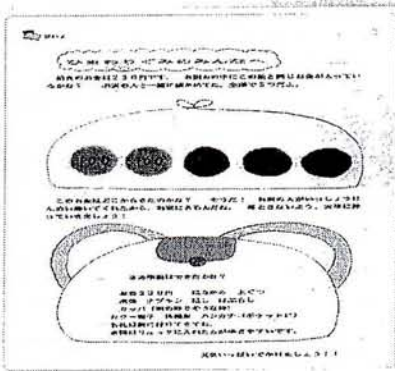
展開の特色

- * 給食交流のお誘い。
- * 不安な場所と、給食の味。
- * 230円の給食代金、お金の大切さを知らせる良い機会。
- * 一人一人が直接支払う。
- * 学校まで持っていく工夫を保護者と共に。
- * お金の仕組みを学ぶ。

内 容

第1次 クラスで話し合う

第2次 保護者をお願い



内 容

第1次 クラスで話し合う。

第2次 保護者をお願い。

第3次 自分でお金を支払い領収書をもらい
給食をいただく。

(本時)

第4次 事後の話し合い。

第3次 本時の展開

本時の目標

大切に持っていった財布から、自分でお金を支払い給食をいただく。

幼児の活動、教師の援助・留意点

- ・ 自分の用意した財布をカバンから出す。



幼児の活動

- ・ なくなっていなかったことに喜びを感じる。



幼児の活動

- 230円を自信をもって支払う。



幼児の活動

- 「お願いします。ありがとうございます。」の挨拶をする。
- 頂いた領収書を財布にしまう。



幼児の活動

- 喜んで給食をいただく。



幼児の活動

- お金を支払ったからこの給食がいただけたことや、お金のありがたさを感じる。



第4次 事後の話し合い

支払い体験や、お金の大切さを体験した後
保護者の方からの声

- ◆前日に二人で大切なお金の話をし、準備をした。
- ◆給食、全部食べたよ。
- ◆大切な領収書。
- ◆経済のしくみが少し分かったかな。

考 察

- ① 230円が自分の食べる給食の代金ということで、身近に本物のお金の大切さを感じることができた。
- ② 小学校との交流という、ワクワクする初めての経験がお金を使うということと結びついていった。またそれによって小学校が身近に感じられ、自信となった幼児が多かった。

③ 100円2個、10円3個は幼児にとって分かりやすい数だった。無理なくしっかり数えて確認することができた。

④ 保護者と事前に連携したことが良い結果につながった。

⑤ この経験が、自分のことは自分で責任を持つという構えとともに、幼児にお金の大切さが伝わったといえる。

最後に

- 楽しい経験を通して、お金のしくみや大切さを知らせる。
- 楽しい経験。
- 本物のお金の基本。
